

POST CARD

市内へと向かうトンネルを抜けると、
目の前には海と街が同時に現れる。
港をぐるりと取り囲む斜面には、家々がひしめいている。

かつてこの街には海の向こうからやってきた外国人と
海の向こうを目指す志士や幕臣が行き交っていた。
今も、ポルトガルのお菓子と、オランダの商館と、中華街と、
造船所と、うまい魚料理がごちゃまぜに同居している。

日本の西の端に位置する長崎市は、遠い。
その印象に反するように、海と街、人と人の距離は、近い。
街の人は言う。
すべてを受け入れる長崎市民の懐の広さが
この街を常に新しい街へと進化させてきた、と。
その意味を理解できるまで、あと何度か通うことになりそうだ。

暮らしのそばに、ほら世界。

暮らしのそばに、ほら世界。



NAGASAKI